

外国ルーツの子どもも支援へ

NPO「わーるどりんぐ」設立記念シンポ

言葉の課題や進学状況 現状共有

【佐賀市】

外国にルーツを持つ子どもの交流を支援するNPO法人「さが子ども多文化センター・わーるどりんぐ」（松下一世代代表理事）が20日、法人設立を記念したシンポジウムを佐賀市で開いた。関係者ら約50人が出席し、子どもたちが置かれた現状や課題を共有した。



シンポジウムで、外国にルーツを持つ子どもたちの進路状況などを語る松下一世代代表理事・佐賀市の青少年センター



支援する会の交流会で、ゲストの話聞いた感想を発表する参加者。2024年8月、佐賀市の本庄公民館

「佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会」として2013年2月から交流会や学習支援を行い、今年6月に「わーるどりんぐ」として法人化した。

シンポジウムでは元佐賀大教育

学部教授の松下さんが、中国、台湾出身の女子中学生の友人関係の悩みが会発足につながったことを紹介した。中学校の教諭から佐賀大の中国人留学生の紹介を依頼されて場を設けると、生徒と留学生は中国語で盛り上がったといい、「同じ立場の子どもたちが母語で交流する場が必要だと感じた」と語った。

外国にルーツを持つ子どもたちを巡っては、言葉が通じずに孤立を深めたり、日本語指導を十分に受けられず、進路の選択肢が狭まったりする状況がある。松下さんは、県内の中学校を対象に行った外国にルーツを持つ子どもたちの進路状況や教育面での課題など調査結果を報告。文化や言語といった背景を把握していない学校もあり、「抱えている困難を可視化する重要性が示された」とした。

わーるどりんぐは今後、各市町での学習支援のニーズを調べ、指導の担い手を養成する講座を開く。松下さんは「ニーズが1人でも2人でもあるなら、活動していきたい。高校に行けない子どもたちを出さないのが目標」と話す。

（福本真理、横田千晶）